

The Changing Face of Software Testing

様相を変えるソフトウェアテスト

By Sashi Reddi: Applab CEO

開発とテストの分割発注

企業が彼らの IT サービス供給者から追加のビジネス価値を引き出すことに焦点を当てた結果、ますます多くの企業が開発からテストを分離しようとしています。多くの企業が、アプリケーション開発作業を開発専門家に任せ、そして開発から分離したテストは第三者テストサービスプロバイダーによって引き受けられます。現在、25%以上のクライアントは故意に彼らのアプリケーション開発/システムインテグレーションとソフトウェアテストを2つの異なったパーティーに与えます。これは企業にソフトウェア開発の品質に、客観的で外部の視点を持つことを主として助けます。注意すべきは、この変化はこの10年間の間にほとんど完全に生じました。

ここ数年間に亘って、品質保証(QA)は戦術から戦略に変わった。

ここ数年間にわたって、品質保証(QA)は戦術から戦略に変わっています。80年代/90年代の初めには、QAが浮上している段階で企業はQAの戦術の視点で、アドホックで、決まったプロセスに欠けたアプローチを持っていました。90年代後半/早期00年代には、転換期としてインダストリーは連続的に成熟していき、QA 価値命題の増加する承認があって、大抵の会社は、テストチームを持って、または持つことを試みて、テストプロセスのある種の使用を始めました。このフェーズでは、幾つかの銀行や通信プロバイダーが先行しました。それらは、テストを分けて実施することの必要性を最初に証明しました。

そして、我々が今日の目撃者であり、未来と呼んでいる変化した高度なフェーズがきました。00年代後半に開き始めて、ITサービスの未来に深く影響を及ぼし続けている章です。QAの戦術から戦略への--QAのCOE(Center of Excellence)の確立、と進行中の改良のための進んだ測定基準はこのフェーズを特徴づけます。またこのフェーズは、管理されたテストサービス契約を与えることによってテスト業者に責任を置く痛みを減少させようとする組織によって特徴付けられます。

ソフトウェア開発ビジネスは大規模ですそして、そのビジネスの約

30%はテストです。

ソフトウェア開発ビジネスは大規模です、そして、そのビジネスの約 30%はテストです。成長が主として三次元にあります。品質管理、品質保証でのコンサルティング、オフショア – オンサイトでの要員派遣サービスから、インドのようなオフショア地域から実施される専門家テストサービスを含む拡張で、最小ではなく最終のイノベーションです。ここで顧客は、生産性向上、ツール、方法論、および新しいオフショアの利益を得ることができるようになります。

クラウドコンピューティング

ERP テスト、仮想のテスト環境、テストデータ管理、そして IT インフラストラクチャ テストはソフトウェアテストサービスに関する強い成長/拡大領域です。また、IT 産業の他のすべての部門のように、クラウドコンピューティングは、テストに効能を与えます。テストインフラストラクチャを見ると、クラウドは明白な領域の拡大です。しかし、クライアントにテストインフラストラクチャが既にあると、サービスプロバイダーはそれらのために個人的なクラウドを作る必要があるでしょう。多くのアプリケーションがクラウドを可能にします、そしてクラウドのために変換されている多くのアプリケーションをテストする機会は物凄いものとなります。

第三者テストサービスの活用

今日、企業は今までに増して、利益を得るスピードを増し、アプリケーションの品質を向上させるなどして、生産力を改善し、アプリケーション運用保守コストを削減しようと考え、彼らは第三者のテストサービスプロバイダーを使用することによるプロダクションにシフトします。異なった会社で働いているテスターが、ソフトウェアの開発者と同じ会社で働いているテスターより鑑識眼(厳しい見方をする目)でソフトウェアを見そうであるときに、このシフトが起こる主要な理由があります。

第三者のテストサービスプロバイダーを使用する世界中の企業が、リスク緩和、新しい製品/サービスの検証、テストサイクルの減少による市場への展開時間の短縮、そしてリアルタイムの営業実績とそのモニター等を含む事業戦略のかなりの改善で利益を得ています。

先進運用関連顧客では、セキュリティ監査に適合するのがより良いので、それらの産業に焦点を合わせるカスタムテストソリューションを見いだして、ERP 開発とアップグレードのパッケージアプリケーションテストを効率よく使用し、収入監査をサポートするランザクションテストをテコに、アプリケーションの国/領域の特定の準備可能性を確実にすることがあります。

専門家を呼び入れることによって獲得された技術上の利益は、テスト・ツール、プロセ

ス、QA 環境、正しい第三者ツール専門的技術をテコにする能力、パフォーマンステストでのターンキーの活用、自動化された回帰テストからの利益、インフラストラクチャテストのための第三者の活用、等の標準化と最適化を含んでいます、そして SDLC 前段階の検証をドライブする支援としてのフレームワークからの上記すべての利益です。また将来のデリバリーモデルは、T&M フレームワーク契約、主として生産性に基づく SLA に基づく契約へと移行します。

インドのテストビジネス市場

以前はそれをテストすることへの戦略の見通しについては、予算、時間、およびリソースの不足によって通常抑制されました。現在は目に見えるシフトがあり、そしてほとんどの企業ではテストはそれ自身の予算を持っています。2010 年に、ソフトウェアテスト支出が 790 億ルピーであります(註 1)、そして、図式では 2014 年(PAC)までに 1000 億ルピーに登ることになっています。今日テストは明確に IT 予算パイの、より大きいスライスを得ます。テストは典型的アプリケーションライフサイクルの人工時間の最大 33%を占めており、時々針が最大 50%まで動きます。

現在、層 1 か層 2 のサービスプロバイダーに関するのはそう多くなく、ほとんどの企業での業者を選ぶ際の識別因子はおおよそ 2 つのものです。

①どの様に多くの価値をベンダーがテーブル上にもたすか？そして

②その価値のどのくらいが顧客のそしてそのビジネスに価値を為すか？

要するに彼らが求めるすべてはこと'価値のある得意先として私を扱う'です。それは、多くの企業が専門家の価値に満足するという文脈にさらにあります。更に進むと、特に IT と第三者テストサービスプロバイダーのための非常におもしろい時間です。

(註 1)

約 1,400 億円 (2010)、約 1,800 億円 (2014)

(参考 : 800 億円 (2007))